

令和8年度 入学式 式辞

R08.04.08

霊峰石鎚を仰ぎ、赤石（あかいし）山系に春の光が満ちあふれる佳き日、御来賓や保護者の皆様をお迎えし、愛媛県立新居浜商業高等学校 令和八年度入学式を、盛大に挙行できますことを、心よりお慶び申し上げます。

まず、今日までお子様を慈しみ育てこられた保護者の皆様、お子様の伝統ある本校への御入学、誠におめでとうございます。お子様の晴れ姿を迎えられましたこと、教職員一同、心よりお慶び申し上げます。今日からは私どもが、責任を持ってお預かりをさせていただきます。

さて、新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

今日から始まる高校生活を前に、皆さんに一つ問いかけたいことがあります。義務教育を終え、自らの意思で学びを深めるこの場所で、皆さんは一度はこう思う日が来るかもしれません。

「なぜ、難解な勉強をしなくてはいけないのか？」と。

その答えのヒントとなる話を、本日はなむけの言葉として贈ります。

今、皆さんの目の前に「水が入ったコップ」があると想像してみてください。

これから皆さんが「数学」を深く学べば、

ただの水を見て「ここには200mlの水がある」と、世界を論理的かつ正確に捉える力が身につきます。

「理科」を学べば、

その水が「水素と酸素からできている」という、目に見えない本質や自然の法則を知ることができます。

「地歴公民」を学べば、

この水がどこから流れてきたのか、歴史的背景やインフラ、そして世界にはこの水さえ手に入らない人々がいるという現実、思いを馳せることができるでしょう。

「保健体育」を学べば、

コップを持つ自分の体がどのように支えられ、機能しているかを知り、

「芸術」を学べば、

水の量によってコップが奏でる音色の変化や、光に反射する水の輝きを美しく表現する感性が磨かれます。

そして、「国語」や「英語」を学べば、

その発見や感動を適切な言葉にし、隣にいる友人や、海を越えた世界中の人々と語り合う武器を手に入れることになります。

さらに「家庭科」や「倫理」を通して人間性を学べば、

その大切な水を、独り占めするのではなく「誰かと分け合うことの尊さ」を理解するはずです。

「商業」や「情報」を学べば、

その水を、本当に必要としている人々の元へ、どうすれば広く、永続的に届けることができるかという「社会を豊かに回す仕組み」を知ることができます。

もし、何も学ばなかったらどうなるでしょう。

目の前にあるのは、いつまでもただの「コップに入った水」で終わってしまいます。

高校での学びとは、単にテストで点数を取るためのものではありません。

これからの人生において、世界をただ「眺めているだけ」にしないためにあるのです。

目の前にある事象の「すべての意味」を理解し、豊かに感じる心を持ってほしい。

それが、私たちがこれからの教育課程に込める願いです。

どうか今日から、主体的に学び続けてください。

そして、その学びで得た多角的な視点で、皆さんの目に映るこの世界を、より鮮やかに彩ってってください。

皆さんの高校生活が実り多きものになることを祈念し、式辞といたします。

令和八年四月八日

愛媛県立新居浜商業高等学校 校長 長井 郁夫